担当者が語る発掘調査

30年講座

連続講座 2

2016年8月7日（日）13:30～
愛知県陶磁美術館　本館講堂
埋蔵文化財展「弥生への旅　朝日遺跡」

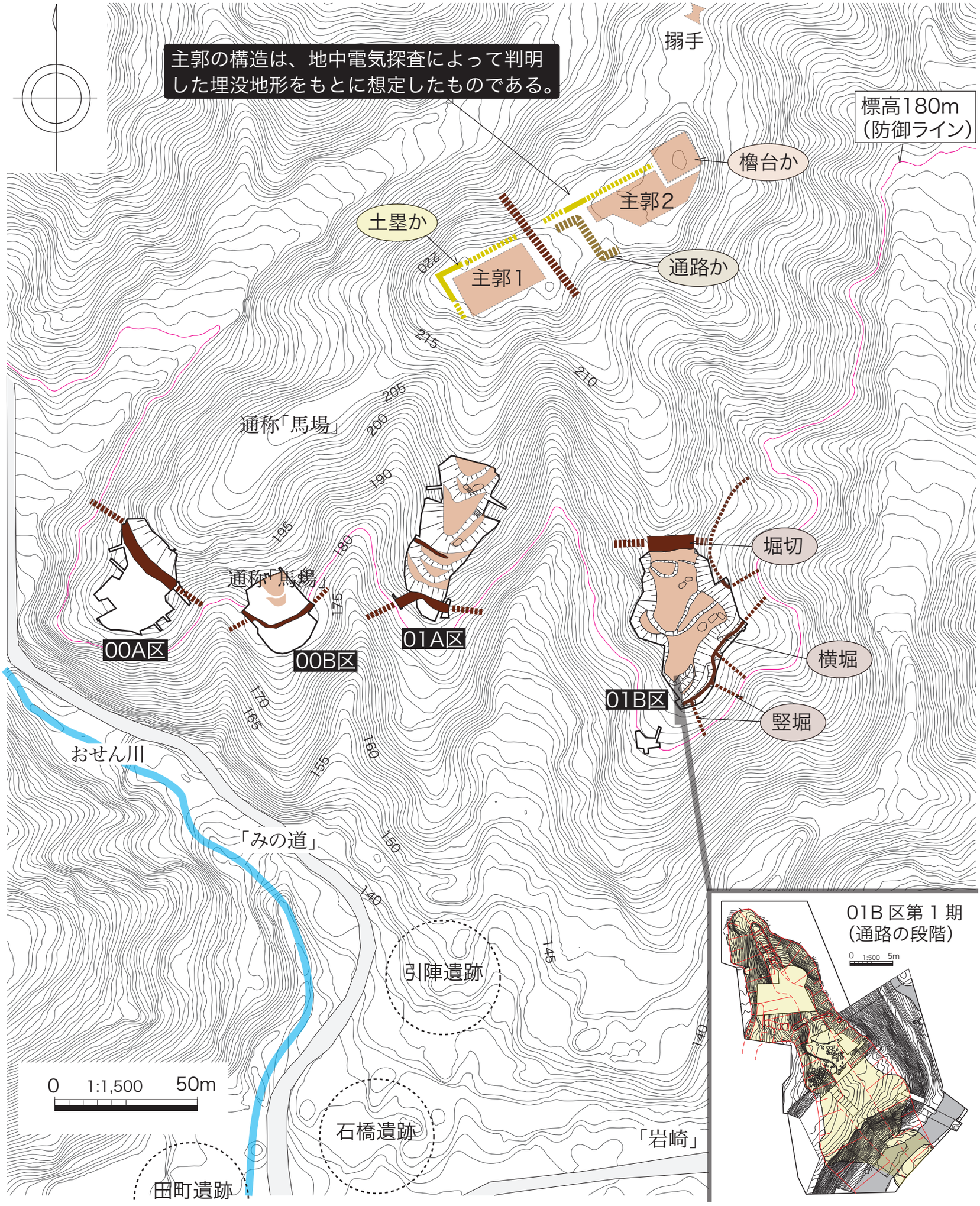
足助 城山城跡

永井邦仁
（愛知県埋蔵文化財センター 調査研究主任）

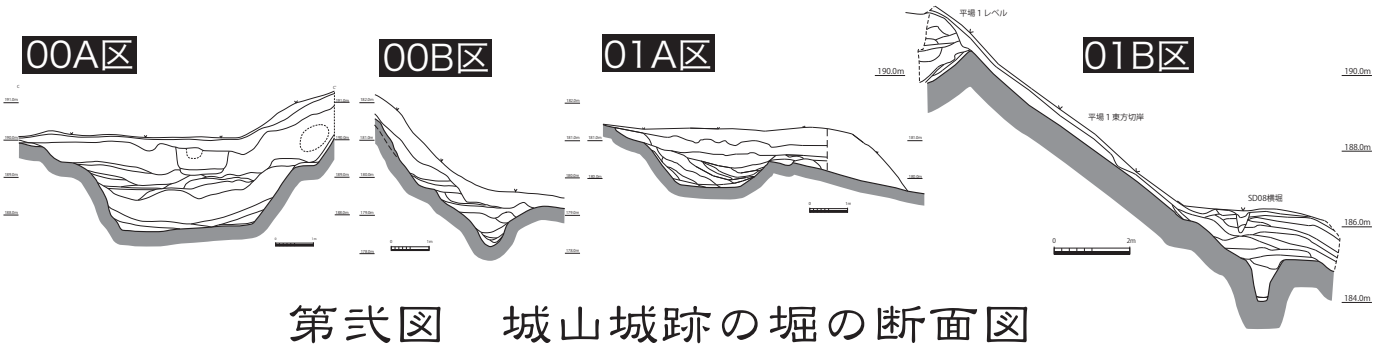
キーワード：戦国時代、足助、横堀、腰曲輪、武田氏

【所在地】豊田市（旧足助町）城山・引陣
【調査期間】（範囲確認調査）平成11年（1999）7月
（本調査）平成12年（2000）10月～平成13年3月、9月～平成14年3月
【調査理由】国道153号足助バイパス建設工事
【総調査面積】4,000㎡
【調査担当者】花井伸・竹内睦・宮腰健司・鈴木正貴・武井繁樹・成瀬友弘・永井邦仁
【報告書】『城山城跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第122集（平成17年）
【概要】足助地区の市街地は、巴川と支流の足助川が東西に流れる谷地形の底にあり、その両側は標高約300mの丘陵となっている。戦国時代の山城跡である城山城跡は、北側丘陵の南向き斜面に所在し、主郭部分の標高は約220mで、市街地の標高126mに対し約100mの高低差がある。城跡の範囲は標高約180m以上に限られ、4つの発掘調査区ではいずれも横堀とよぶ防御線が構築されていた。横堀に守られた空間には小平場が構築され、鉄鍛冶などの作業が行われていたことが確認された。これら腰曲輪は01B区の調査成果によって、当初城下から主郭へ向かう通路であった場所が、大規模な埋め立て造成を伴う改変を受けたものであることが推測される。また、横堀の底からは16世紀後葉を下限とする遺物が出土しており、その頃に廃城になったと考えられる。これは甲斐の武田氏が三河に侵攻した時期に近く、本城がそういっ戦国時代末期の戦争に直面していたことをうかがわせる。

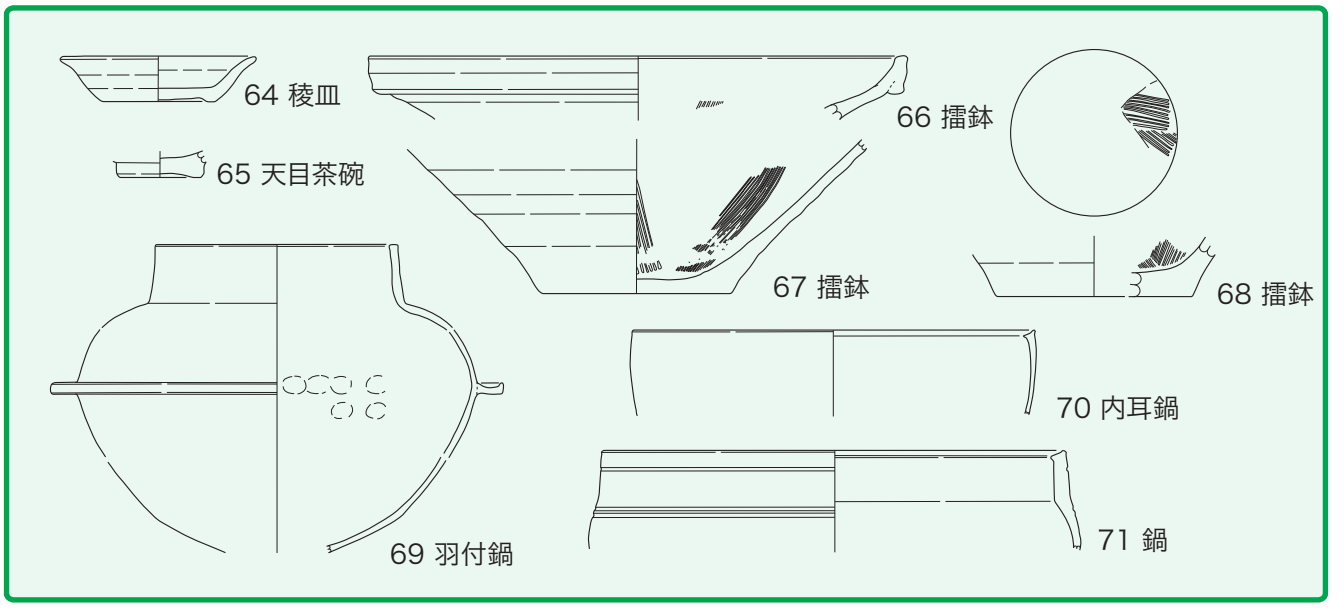
お問い合わせ先
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24
Tel. 0567-67-4163　Fax.0567-67-3054
http://www.maibun.com/top/


主郭の構造は、地中電気探査によって判明した埋没地形をもとに想定したものである。
搦手
標高180m（防御ライン）
櫓台か
主郭2
土塁か
主郭1
通路か
通称「馬場」
堀切
横堀
竪堀
00A区
00B区
01A区
01B区
おせん川
「みの道」
引陣遺跡
石橋遺跡
田町遺跡
「岩崎」
0 1:1,500 50m
01B 区第 1 期（通路の段階）
0 1:500 5m

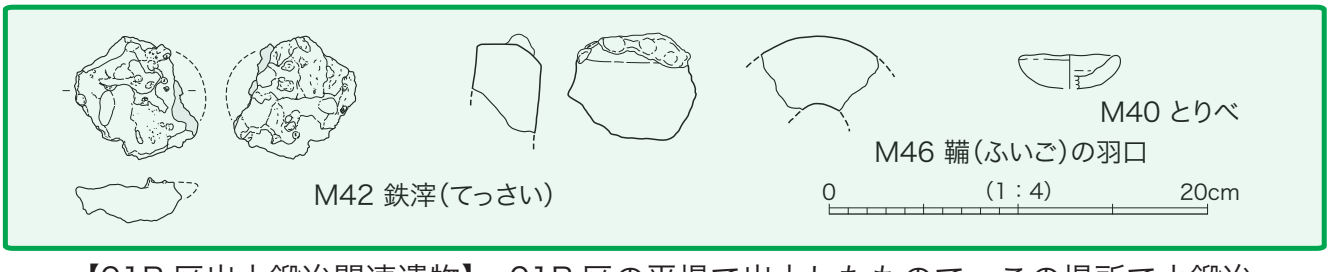
第壱図　城山城跡全体図



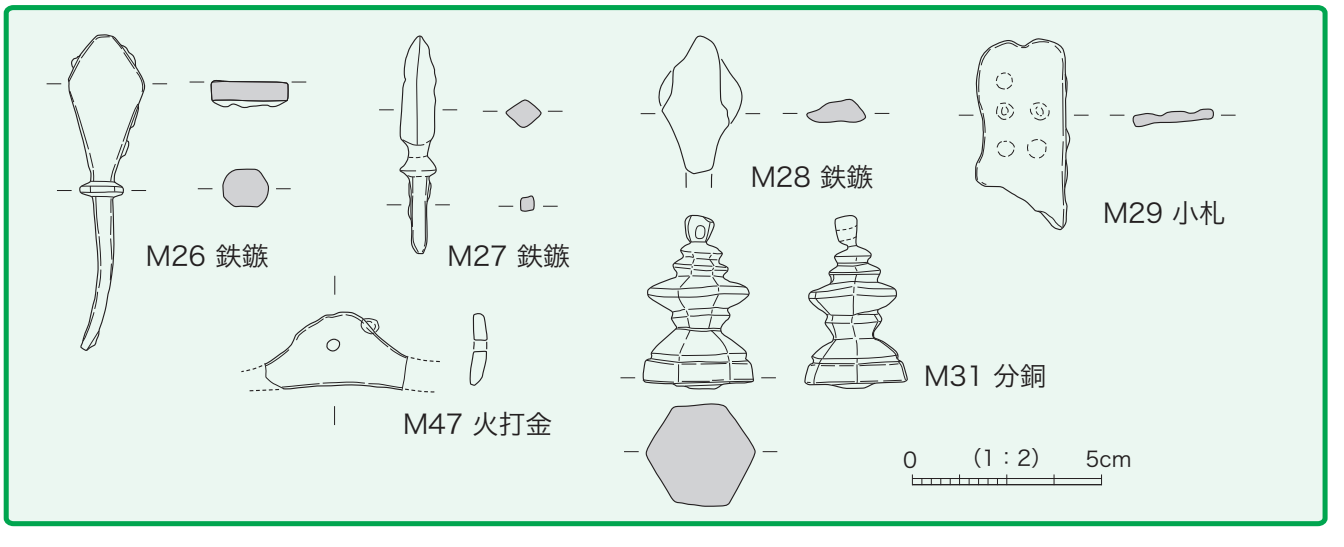
第弐図　城山城跡の堀の断面図



【01B 区 SD09 出土土器】 横堀の底から出土した瀬戸・美濃窯産陶器（64～68）と土師器煮炊具（69～71）である。陶器類は瀬戸の編年で大窯 3 期を下限としており、16 世紀後葉に横堀が廃絶（＝城山城の廃絶）したことを示している。



【01B 区出土鍛冶関連遺物】 01B 区の平場で出土したもので、この場所で小鍛冶（金属加工）が行われていたことを示す。下図のような武器も扱ったか。



【城山城跡出土の武器など】 軍事施設ならではの遺物がある。残念ながら残念ながら鉄砲玉はなかった。分銅は 94.3g、戦国時代は様々な形状の分銅があった。

第参図　城山城跡の出土遺物実測図（戦国時代）

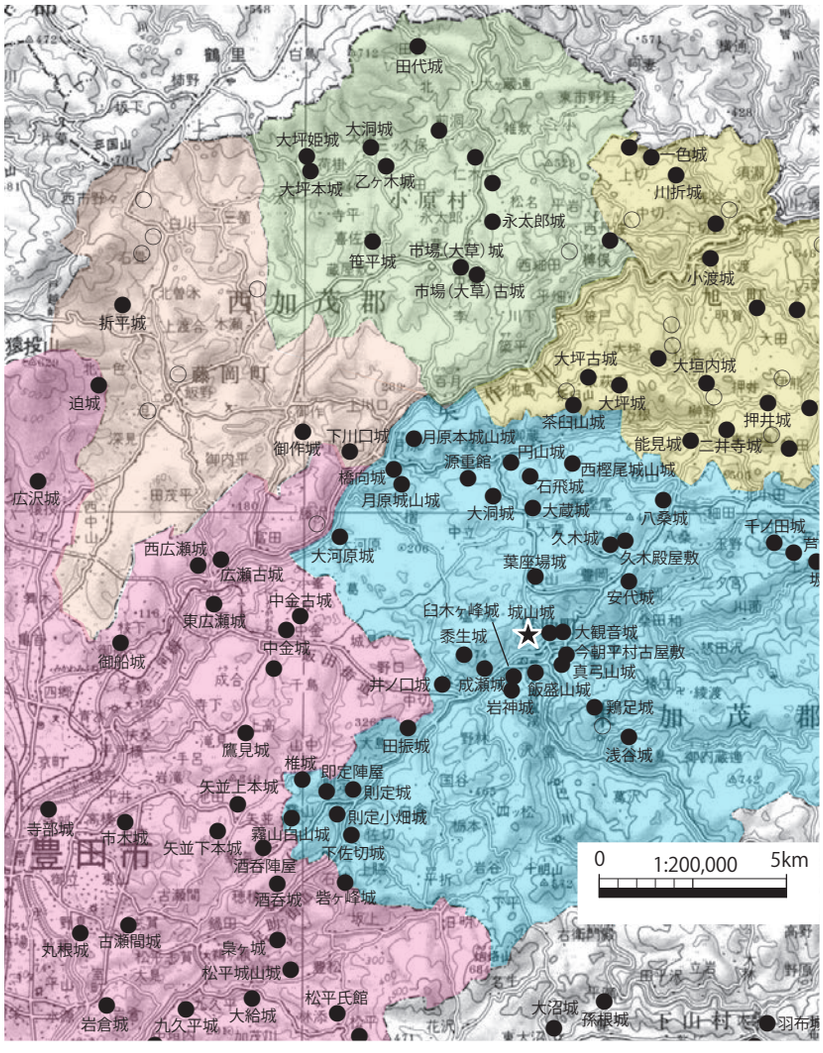
年表　足助の戦国時代

西暦	元号	出来事	史料
1484年	文明16年11月1日	佐々木郷上宮寺の門徒一覧に「足助岩崎　一箇所」とある。	如光弟子帳（『岡崎市史』史料古代中世194）
1525年	大永5年5月14日	松平清康、2000余騎で足助へ押し寄せる。鈴木重政降服、嫡子重直の妻に清康の姉を迎えることを承諾。	三州八代記古伝集
1552年	天文21年11月27日	今川家岡崎在番の指示で松平勢2500余騎が足助表へ押し寄せる。	東照軍鑑
1553年	天文22年4月21日	鈴木重直、岡崎方面に出陣、麦苗代を薙ぐ。	東照軍鑑
1554年	天文23年5月9日	今川家岡崎在番の馬場・掘越が3500余騎で足助表へ押し寄せる。	東照軍鑑
1561年	永禄4年7月9日	松平元康、鈴木重直の所領を安堵する。	松平元康書状　鈴木文書（『愛知県史』資料編織豊137）
1561年	永禄4年8月2日	松平元康、簗瀬九郎左衛門家弘・原田小右衛門種久に、三河国折立・菅沼郷の替え地として、同国武節郷を与える。	松平元康朱印状写　譜牒余録巻二（『愛知県史』資料編織豊146）
1562年	永禄5年3月晦日	松平元康、3000余騎で足助表へ押し寄せ各地に放火。	東照軍鑑
1564年	永禄7年10月6日	松平元康、3000余騎で足助へ押し寄せる。これ以降足助重直は家康の家臣石川数正の組に配属される。	東照軍鑑
1571年	元亀2年4月26日	武田勝頼、越中国の杉浦紀伊守に、「三州足助城」などを攻略したことを伝える。	武田勝頼書状　遠山家文書（『愛知県史』資料編織豊756）
1571年	元亀2年4月30日	武田信玄の臣である山県昌景が孕石元泰に、鈴木重直・信重父子の降服、そして周辺の諸城（「浅賀井・阿須利・八桑・大沼・田代」）が「自落」したことなどを伝える。	山県昌景書状写　古案三州聞書（『愛知県史』資料編織豊757）
1572年	元亀3年8月10日	武田信玄が、遠江侵攻に際し軍令制定。山家三方衆（設楽郡田峯菅沼氏・長篠菅沼氏・作手奥平氏）に下条信氏の加勢を命じる。	武田信玄条書　古澤正臣氏所蔵文書（『愛知県史』資料編805）
1573年	元亀4年	武田信玄死去。松平信康、足助城と武節城を攻めて武田勢を駆逐。鈴木重直失地回復。	『足助町史』
1575年	天正3年3月	織田信忠、武田勝頼の三河国足助出陣（「三州之内あすけ口へ相働」）につき尾張衆を引き連れ参陣する。	信長記第八（『愛知県史』資料編織豊1076）
1575年	天正3年4月	武田勝頼、「足助表」へ出張、各所に放火後「作手筋」から「野田」へ侵攻。	当代記巻1（『愛知県史』資料編織豊1153）
1575年	天正3年	織田信忠・徳川家康、長篠合戦後、三河・美濃の武田勢掃討を実施。	菅沼家譜　菅沼家文書（『愛知県史』資料編織豊1158）
1575年	天正3年	作手の城番であった小幡又兵衛、長篠合戦敗戦により「あすけ」へ逃亡。	甲陽軍鑑　品第五二（『愛知県史』資料編織豊1182）
1579年	天正7年8月19日	松平家忠、足助に漆を買いに人を遣わす。	家忠日記　同日条（『愛知県史』資料編織豊1337）
1579年	天正7年8月19日	松平家忠、足助に漆・綿調べに人を遣わす。	家忠日記　同日条
1629年	寛永6年	足助に「西町・東町・新町・田町」があり200余戸の在住があると記録。	足助村御縄打屋敷帳

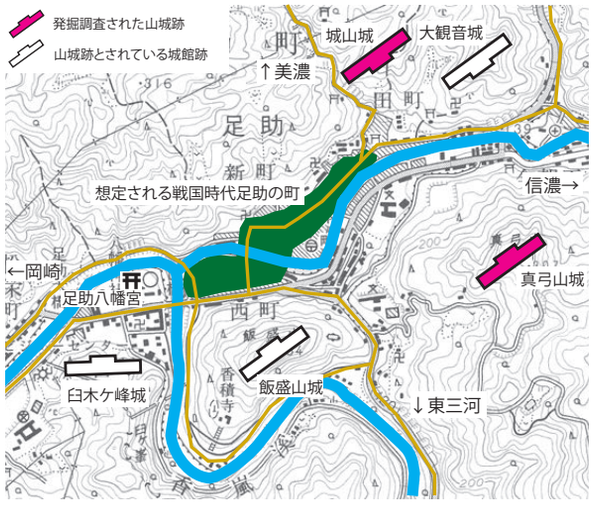
【武田の三河侵攻】　足助は三河における交通路の要衝でもあることから、戦国大名の覇権争いの場となった。主に松平氏、そして甲斐の武田氏である。特に後者は美濃や遠江方面への大規模な軍事行動と連動し、さらに武田信玄の時期と武田勝頼の時期に分かれる。

しかし近年、これまで元亀２年とされてきた三河侵攻関連の文書の年代について、鴨川達夫氏によって疑義が発せられている。それによれば、武田氏の三河侵攻は天正年間に限られることになるが、現在も論争は続けられており、年代観や「西上作戦」の評価も大きく変わってくることは間違いない。

足助　城山城跡



第四図　東加茂郡域の城館遺跡



第五図　足助の町と城

【足助の町と城】　足助は中世足助荘の中心地として栄えてきた。それを示すように、町を取り巻く中世城館跡が知られているが、発掘調査などを経て、確実な戦国時代の遺構や遺物が確認されているのは城山城跡と真弓山城跡（足助城）のみである。両者は町の東端を見下ろす位置にあり、美濃あるいは信濃方面からの脅威に対抗している目的があったと考えられる。